

感染症ニュース

No.229 2024/05/24

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

現在の流行の主流株である JN.1 は感染力が強く、過去の感染や複数回のワクチン接種で免疫がある人でも、感染し発症する。今後も高齢者の重症化予防のためのワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続は必要である。感染拡大を最小限にするために、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着けることが推奨される。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、昨年春から高い水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと、腎炎などの合併症を併発する。

インフルエンザ

全国的に下火になっているが、県内では高岡地区でA型の発症の報告あり。

アデノウイルス感染症 (プール熱、咽頭結膜熱)

昨年から引き続いて高い水準で流行中である。急な発熱が数日続くが、比較的元気なことが特徴で、のどの痛み、眼の充血や目やにを伴うこともある。夏に多いが冬に流行することもあり、一年を通してみられる。感染力が非常に強く、登園・登校禁止にもなる。熱や痛みで飲食できないと脱水症になりやすい。

感染性胃腸炎

ウイルス性胃腸炎の代表であるノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、アルコールによる手指消毒を過信せず、石鹼による手洗いを徹底することも重要。これからの季節は、細菌性の食中毒にも要注意。

RSウイルス感染症

以前は夏の終わりから春先にかけて流行していたが、3年前からは、初夏から秋にかけて流行するようになり、全国でも富山でも流行が始まっている。夜間に激しくなる乾いた咳が特徴で、生後数か月までの乳児が感染すると重症となり、呼吸困難に陥って死に至ることもある。高齢者も感染すると重症化しやすいので要注意。